



洋書輸入協会会報

Vol. 31 No. 12 (通巻367号) 1997年12月

フランクフルト書籍展

医学書院洋書部 桑原 七男

1997年のフランクフルト書籍展は10月15日から10月20日までの、普段よりやや遅めの日程で開催されました。展示書籍点数の若干の減少はありましたが、107か国から9,587社の出版社の参加を得、入場者数は287,670人と過去最高の規模となりました。内外共に先の見えない不況のなかで、これらの数字はどう解釈したらよいものでしょうか。

出展社のスタンドの殆どは例年並み、あるいはやや地味な造作が多く、唯一ニューメディアの会場のみが鼻息の荒さを見せていました。ニューメディアの世界でのホットな話題は何といっても DOI システム、つまりデジタル著作物識別子システム (Digital Object Identifier System) で、インターネットによる情報の著作権管理を可能にし、その配給、流通を実現する根本的なしくみが出来上がったといってもよいでしょう。インターネットジャーナルが今後益々普及していくことはこれで保障されたといえるでしょう。

これに関連し、新たなビジネスとして、デジタル・ライブラリー (Digital library) が既に始動しております。ある出版社の全雑誌をインターネットにて配合するという、かなり大きな仲介商売をしようという会社も出現しております。

もう一つの大きな話題は、Read Elsevier と Wolters Kluwer の超巨大合併が公表されたことです。既に一般紙でも取り上げられておりますので、先刻ご承知と思います。これをめぐってオランダ国内では、独占による価格吊り上げに反対する動きも出ていていると聞きます。年商1兆円、従業員4万2千人という破格な規模のメディア企業の出現に驚かない人はいないでしょう。Saunders が Churchill Livingstone を吸収したという話もその影にかくれてしまった感がありました。

職業柄、学術出版に関する話題が中心になりましたことをお許し下さい。



目次

フランクフルト書籍展	1	うちの会社	3	出版文化史逍遙—西から東から—	6
海外ニュース	2	超伝導リニア式走行の快挙	4	1998年度主要国際書籍展一覧	7
パソコン外論考(其4)	2	お知らせ	5	広告	8

書籍購入予算の削減

LOUGHBOROUGH UNIVERSITY'S LIBRARY & INFORMATION STATISTICS UNIT の最新の調査によると、公共図書館が1996—97年度予算の削減をするにあたってその最大のターゲットは書籍購入予算になるとのこと。同機関による報告は Public Library Materials Fund and Budget Survey 1996—98で、英国全土190の専門組織のうち167から得た数字を基にしている。公共図書館全体の1996—97年度支出は前年度をわずかに下回っただけだが、インフレと諸経費の高騰の影響で地方の図書館は予算を削らざるを得ない状況になって

いる。経費支出のなかでも特に書籍の予算が大きく削減されている。

1996—97年度の書籍代はイングランドの場合で前年度3.2%ダウン、英国全土で4.2%ダウンであった。1996—97年に2.6%の書籍価格上昇が実施された場合には、現実の下げ率は英国全土で6.8%になるだろうと、この報告書は予測している。

対照的にビデオ、オーディオ商品、そして電子出版物への支出は増加しており、商品購入全体に占める割合も1995—96年度の9.7%に対して、1996—97年度は10.9%に増えている。これらの増加は、オーディオ商品が図書館収入に貢献していることによるものだと、報告書は見ている。

【THE BOOKSELLER/AUGUST 15, 1997】

パソコン外論考（其4）

宇田川一彦 Udagawa Kazuhiko

◆神様は、己の食扶持を稼ぐ子を祝福し給う／God bless the Child that's got his own.

子曰、知者不惑、仁者不憂、勇者不懼、

The Master said, The man of wisdom is never in two mind; the man of benevolence never worries; the man of courage is never afraid.'

（論語／子罕・Confucius; The Analects/Book IX）

【超拙意訳；先生は、私にはなかなかできないことだけれどなあ。まあ、何か決断するときには、『知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者は懼れず』とありたいものだね、といわれた】

で、パソコン購入にあたって、これ程までの決意・決断は必要としないと思いますが…。しかし、パソコンメーカーやソフトウェアメーカーの思うツボ（宣伝・喧伝）にハマらないだけの知恵は持ちたいものです。

ということで、今稿では少し具体的にパソコン選びをおこなってみます。

●パソコン買うなら本体25万円以内。＝OS＋Monitor＋CD-ROM（できれば24倍速）含む。（この他にプリンター、ワープロソフトなども必須なので、あと数万円は覚悟）

●CPU は、最高速のもの。

この2点が合言葉。

本稿を書きはじめた頃、当時最高速 CPU は、Intel の Pentium II 233MHz（メガヘルツ）、266MHz（もち、一般用パソコンで販売されていたもの）が、8～16倍速 CD-ROMドライブ付で、30～40万円（この差は、GRAPHICS BOARD の違いと、Monitor のインチの大小差、搭載 MEMORY の多小）です。

ところが、3～4か月後には（1997年12月10日現在）には、これが21万ちょっとか、19万8千円とかになっています。

ということは、パソコンの値段なんて半値に下がるのか、という声が聞えます。「その通り」なのです。本当に3か月に一回、年4回は strategic に強制パソコン製品陳腐化世代交替（廃品化）をおこなっています。いわずと知れたパソコン価格安定のためにです。

[たまた、SUPERMARKET の客寄せ目玉商品的に、前（前々）世代（悪くいえば時代遅れのパソコンを10万前後でなぜ売っています。誤解なきように言いますが、これは使えないというのではなく、この手のパソコンでも、十分個人ユースには耐えられます）]

現時点では、この CPU 供給メーカーの Intel 社が、実質的には独占（もちろん AMD とか Cyrics とか互換 Chip メーカーもありますが）状態です。この世界は、Monopoly でなくてはいけません。Duopoly や Oligo-

poly はないのです。

そこで、パソコン選びの最大の目安である「CPU の歴史」を振り返っておくことも必要です。で、本来ならば Intel の CPU だけでなく、対抗馬の林檎マークの CPU 製造会社、Motorola 社+IBM 社も見ていきたいのですが、この 2 社とも Giveup、もう Mac の時代はないでしょう、と言い切っておきます。

ということは、今後パソコン選びの眼中にはこの林檎マークは入れなくてもいいってことです。

で、当該 Intel 社の 16 ビット系 CPU 以上の歴史を。

1) 1982 年 80286 発表 = 16 ビット CPU 時代幕開け

2) 1985 年 386DX = 32 ビット CPU 時代幕開け

この 386 には、SX とかクロック (MHz) の違う亜流がありました。だけど、この 386 時代はアッという間で消えたはずだが…。このパターンは Intel の得意芸。

3) 1989 年 486DX = 本格的な 32 ビット CPU 登場

これも SX だとか MHz の違う亜流がボロボロ登場。落ちつき先は 486DX (66MHz)。

4) 1993 年 Pentium = 完成された 32 ビット CPU 登場

Pentium (75MHz) = ギリシャ語の「5」の PENTA がネーミングの由来。俗称 P5。筆者個人的には、このあたりの CPU でパソコンとしては十分と考えてい

ます。

5) 1995 年、Pentium Pro = Intel としては、5 のひとつ上の 6 の気分で、俗称は P6。

6) 1996 年、Pentium MMX (Multi Media eXtention) = マルチメディア拡張機能付 CPU なのでしょう。このあたりなると、口もあきません。

7) 1997 年 5 月、Pentium II = これは P6 + MMX の CPU なのです。

例によってお得意の MHz も 233、266、300 と 3 種。

以上が、パソコン CPU の流れの現状なのです。

で、結論。現時点ではパソコンを買うべきではないと考えます。98 年春がきて桜が咲く頃まで。価格的には 20 万前後（これは戦略的に下げないだろうから）を用意して待ちましょう。といっても、欲しいという人は、知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者は懼れずに、選ぶなら

★ Pentium II / 300MHz / Core Chip = Intel 440LX - AGP (Accelerated Graphics Port) SET/MAX. 24 倍速 CD-ROM/3GB (ギガバイト) HDD/OS = WIN. 95 で、20 万切ったものを推奨。

間違っても、266 とか 233MHz のもの、CPU も MMX とかを選んでは、泣きをみますので。

(この項続く・乞御期待)

うちの会社

至成堂書店

当社は 1947 年 (昭和 22 年)、現在の会長、堀秀光により古書店として創業。洋書直輸入販売業は、1956 年 (昭和 31 年) より開始しました。1967 年 (昭和 42 年) 法人成りで株式会社に組織変更し、今日に至っています。洋書輸入開始当初は、京都の伝統産業である西陣織物業関係の書店への染色デザイン、美術書の卸販売を行い、また本来の志向であった学術洋書輸入も手がけて着実に業績を伸ばし、創業期の地盤を固めました。

当社は、哲学、宗教、文学、芸術、美術、社会思想および自然科学史等を含む広い意味の「人間の思想の歴史」という分野を想定して関係洋書を取り扱い、顧客の注文による取り寄せだけでなく、専門書店として

自らの判断により精選した豊富な在庫と、新鮮かつ適切な情報の提供をもって研究者の要望に応える営業活動を心掛けてきました。現在、ドイツ書の取り扱いが一番多く、次いでフランス書、英米書の順です。

電子出版物の急速な普及や情報革命に伴うかつて経験しなかった出版文化の混乱、大学の変革に伴うマーケットの変化等、学術洋書業界はより厳しい時代に入っていくと思われます。当社はそういった時代の変化を出来るだけ見極めながら、それに対処し、しかも流されることなく、伝統と創造の街・京都にあってユニークな書店であるよう社員一同勉強努力中です。

(堀 宏光)

超伝導リニア式走行の快挙

ーリニアはLかRかー

島岡 丘

12月12日2時55分超伝導リニア式有人走行実験で、世界一速い、時速531キロ達成という輝かしいニュースをテレビと新聞で知った。もっと大きなニュースとして取り扱ってもよいのにと個人的に思ったが、「技術立国」という日本の顔がメディア関係の人たちには様々な写り方をするのだろうか。それともまだ実験段階だから、取り扱いが中間的なものでよいとするのだろうか。

オリンピックでわれわれが知っているように各国が凌ぎを削っているなかで、世界一になるのは並大抵の努力ではできないことである。それを大量輸送手段の鉄道技術の分野で見事成し遂げたのである。日常生活で、車の渋滞で悩み、高い高速道路料金を通勤で払わされている市民の1人として双手を挙げて喜ぶたい。

しかし、私の専門は英語であるため、英語でこの画期的な出来事を外国の友達に伝えたいという気持ちが起さる。その際、「リニア」はLであるかそれともRであるか迷ってしまうのは私だけであるまい。そこで、「リニア」をきっかけにして、1音とr音との識別をすべての日本語話者ができるようになる可能性を取り上げてみたい。

リニアの内容からは、電極のN極とS極を従来のモーターのように心棒とそのまわりの輪との両極の反発を利用して回転させるのではなく、車輪をレールの線上でN極とS極を反発作用させて、車体を浮上させるのであるから、ラインに関係があり、リニアの始めの音はlであることが想像がつく。もしもRなら、Mt. Rainer, rear が近い音だが、全く別の意味の語になってしまう。

外来語で1音で始まる日常語は他にも多くある。私の長年の課題は、日本語話者の文字指向を考慮し、カナ文字を部分変更して、1音を表せないかということだ。次のように「r・」を1のはじめにつけることによって少なくとも1音らしく出せるようになると思う。以下はその例である。1が苦手の読者諸氏は試みていただきたい。

Lで始まる語

ライン (line)	r・ライン
レーン (lane)	r・レイン
レター (letter)	r・レラ

レース (lace)	r・レイス
レディ (lady)	r・レイディ
ランプ (lamp)	r・レアムプ
ランタン (lantern)	r・レアンタン
リーダー (leader)	r・リーダ
ライト (light)	r・ライト
リミット (limit)	r・リメイット
ライオン (lion)	r・ライアン
ローカル (local)	r・ロウクウ
ロッカー (locker)	r・ラックア
ルッター (Luther)	r・ルース
ラッキー (lucky)	r・ラッキ

一方、1と対立するr音を含む外来語は日常語に1音同様に多く用いられる。r音は英語の母音の弱音を短くしとたような音であるので(音声分析器で既に確認済み)、日本語のウをr音のはじめにつけるよい。そうすると、舌の先が口蓋につかず、r音に近づくからである。r音で始まる外来語で日常よく使われる語には次のようなものがある。

Rで始まる語

ラジオ (radio)	uレイディオウ
レース (race)	uレイス
レール (rail)	uレイウ
レーダー (radar)	uレイダ
レインコート (raincoat)	uレインコート
リーダー (reader)	uリーダ
レコード (record)	uレコー
レポート (report)	uリポー
リプリント (reprint)	uリャイント
レストラン (restaurant)	uレスチュアント
リズム (rhythm)	uリズム
ロープ (rope)	uロウ
ロシア (Russia)	uラシユ

以上のlとrのリストを較べると

lace/race, lane/rainm, leader/reader

など英語で対立する語でも、日本語に入ると対立しなくなる。ほかに、

light/right, lamp/ramp

などの対立も消えてしまう。

日本語を母語とするわれわれは、l/rの対立がなくても差し支えがないので、英語を話すときもl/r区別なく言ってしまうがちな。しかし、英語話者には様々

な誤解を与えかねない。ある良心的な ALT（英語指導助手）は英語の l/r の区別を日本の中学生に教えるにはどうすればいいかと私に相談を持ちかけてきた。ネーティブの真似をすればそれでうまくなれるというのは、どうも神話に過ぎないようだ。私は三通りの方法を紹介した。

1. 歯が痛いときの舌の形で声を出す
2. 舌先を歯茎につけて舌の両側から声を出す
3. 文字上、「ㇿ・」をつけるとよい

と伝え、一方、rを出すには、

1. 舌先をどこにもつけないこと
2. 唇を丸めること
3. 文字上は、「ㇿ」をつけること

を提案した。

上にリストにしたように、文字上の工夫によって日本語を活用すれば少なくとも l と r の区別はできる可能性がある。1988年のドラえもんカレンダーは筆者の提案を5つの原則にまとめ、月の名前と簡単な文に『リトルスター英会話辞典』[共著]（小学館）などで試みたカナ表記方式を採用して載せている。英語の発音記号を正しく解釈できるまでの橋渡しとして、カナ表記は役立つものとして歓迎されるとよいと思う。

これらによって、日本語の持ち味が生かされ、英語発音の発音再学習用の拙著『カナ活用英語のリズムとレダクション』（洋販出版）また、近著『川柳式英語発音熟達システム [仮題]』（同）も同時に生かされるとさらに発音の自身につながるだろう。

なお、「リニア」ということばは、もちろん、名詞の line に形容詞語尾の ar がついて、出来上がったのであるが、line+ar なら、どうして「ライナァ」と言わないのであろうか。その理由は、英語には母音を短くするいわゆる「短縮化規則」という性質があるためである。日本語ではそのような性質はなく、「線」に形容詞の「+的」を加えてもそれぞれのことばの発音が変わることではない。英語が日本語話者にとって捉えにくいのはこのようなことにも一因があるのかもしれない。

ar などをつけると母音が短くなったり、アクセントが変化しがりすることほかにもあるということを知っていると、一つ一つ単語を引かずに関連させて覚えることができ、能率が上がり、定着しやすくなると思う。いくつか例を上げよう。

line	+ar	linear（線上の）
table	+ar	tabular（表の）

particle	+ar	particular（特別な）
pole	+ar	polar（極の）
sun	+ar	solar（太陽の）
family	+ar	familiar（見慣れた）
derive	+ative	derivative（派生的）
describe	+tion	description（記述）
compete	+tion	competition（競争）
superme	+cy	supermacy（最高）
deep	+th	depth（深さ）
tone	+ic	tonic（音の）

最近では教師中心の英語教室から学習者中心の教室に移行し、外国語教授よりは、むしろ第二言語獲得（second language acquisition [SLA]）に移りつつある。

英語の学習についても、基本は好奇心であるように思う。linear motor の単語の意味がわかればよいとするのではなく、さらに linear は実際にどんな用例で使われているのだろうか考えていろいろな辞典にあたってみると、思いがけない興味深い例文とその例文が発せられる英語圏の世界が展開するのである（CIDE より）。

○A linear diagram of the car might be more informative than a full-color illustration.（車の線図のほうがオールカラーのイラストよりも情報量が多いのかもしれない）

○These mental exercises are designed to break linear thinking habits and encourages the creativity that is needed for innovation.（これらのメンタルテストは一線的な思考習慣を改めさせ、新機軸を生み出すのに必要な創造性を十分発揮させるように作成されている）以下略。（茨城キリスト教大学教授）

日本出版貿易株式会社フランス法人

CULTURE JAPON S. A. S

開業のお知らせ

パリのエッフェル塔に近いセーヌ河畔に今春完成しましたパリ日本文化会館一階に新店舗 CULTURE JAPON を開店。日本とフランスの書籍・雑誌を中心に、日本の伝統民芸品文具、雑貨など販売をしている。

Culture Japon S. A. S.

101 bis, quai Branly

75740 Paris Cedex 15 FRANCE

Tel : (33) 01 45 79 02 00

Fax : (33) 0145790209

metro : ⑥Bir Hakeim 下車

ウェブスターの輸入と日本近代化〔1〕

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

日本へのウェブスター辞書の移入（輸入）は、幕末もかなり早くから行われたことが記録に現れている。「英語辞書の歴史」を記したついでに、それを少し探ってみようと思う。当然ながら筆者の貧弱な知識の範囲であることを、お断りしておく。

ウェブスター辞書の輸入で最も有名な史実は、万延元年（1860）に幕府遣米使節に随行した福沢諭吉がアメリカで購入して持ち帰ったことである。これは日本におけるウェブスター輸入の最初であると『福翁自伝』に記しているが、実際にはそれ以前から流入していたようである。幕末における洋書の移入経路は特定できないほど多彩で、ウェブスターもいろいろなルートで入っていたと推定される。なお、ウスターの辞書も流入している様子なので、この辞書についても必要に応じて言及する。

◆幕末のウェブスター辞書移入の諸例（1）

ウェブスター輸入の最も早いケースと思われるのは、アメリカ人マクドナルド（Ranald Macdonald 1824-94）が漂流を装い日本に入国（嘉永元年＝1848）したとき、読書好きの彼は20数冊（40冊を越えるという説もあり数冊という説もある）の図書を持ち込んでいるが、その中に辞書が含まれていたということである。マクドナルドが日本への渡航を夢見て職場のあったカナダのセント・トマスを出奔したのは1841年であったが、この時アメリカで流通していた辞書の中心はウェブスターの『アメリカ大辞典』の元版（1828）と縮抄版（1829）であり、この縮抄版は好評で版を重ねていた。一方ウスターの場合は『詳解英語発音解説辞典』の改訂増補版（1835）が販売されていた。漂流を装うという過酷なシチュエーションを考えると、ウェブスターの元版2巻もののような大きな辞書を持ち出したとは考えにくく、『縮抄版』かあるいは400ページという比較的小型のウスターではなかったかと思うが、むしろ『縮抄版』の可能性が高いのではないだろうか。つまり、この時がウェブスターの初めての将来であったと考えたい。

次に記録に現れる英語辞書の流入は、アメリカへ漂流した中浜万次郎が嘉永4年（1851）に帰国したとき持ち

帰った書籍の中に「ディクショネリ 1845年版 1冊」というのがあったという。1845という年はウェブスターもウスターも改訂新版は刊行されていないので、どちらかの増刷の年号であったか、あるいはほかの辞書の可能性もあり特定できない。さらに、ペリー2度目の来航時（安政元年＝1854）にウェブスターの大辞典を通詞（堀達之助）に贈ったということを随員のスポルディングが語り、これを新渡戸稲造博士も認めているという。これはウェブスターの名前が移入記録として現れた最初ではないだろうか。

福沢諭吉は幕末2度にわたる渡米でウェブスターの辞書を輸入しているが、この詳細は後述することにして、彼が随行した遣米使節も辞書を持ち帰っている。万延元年（1860）に幕府がアメリカに派遣した使節は、安政5年（1858）に締結した日米修好通商条約の批准を目的にしたもので、正使新見豊前守正興（外国奉行兼神奈川奉行）以下77名の大使館団で、勝海舟が艦長を務めた咸臨丸が随伴したことは周知のことである。その折り新見は米国大統領より20数冊の図書を贈られ、自分でも「ウラルシストル著述 英語字引」ほか680冊ほどの図書を購入している。「ウラルシストル」はウスターのことである。これらの本は幕府の諸機関に配分されたようであるが、葵文庫（静岡県立図書館）に所蔵されているウスター『英語発音解説類語辞典』（1858）に「蕃書調所」と「外国方」の捺印があることをみると、このとき持ち帰られたウスターである可能性は高い。

「蕃書調所」といえば、岩崎克己先生が同所蔵書印を捺印したウェブスター“A Primary School Pronouncing Dictionary of the English Language”（1849）を実際に見たことを記している。いつごろ入ってきたのか不明であるが、蕃書調所が存在した安政3年（1856）から文久2年（1862）の間の収蔵ということになる。もちろんそれ以前に日本に入った可能性もないではない。

〔参照図書：岩崎克己「徳川時代における英語辞書の舶載」／池田哲郎「Noah Websterの辞典と綴字書を巡って—アメリカと日本—」〕

1998 年度主要国際書籍展一覽

書 籍 展 名	開催期日	開催地	連絡先 FAX
TOKYO INTERNATIONAL BOOK FAIR	1/22- 1/25	Tokyo	3 3345 7929
MILIA	2/未- 2/未	Cannes	3 531 75420
SALON DU LIVER, PARIS	3/20- 3/25	Paris	00 331 49531788
LONDON INTERNATIONAL BOOK FAIR	3/22- 3/24	London	0181 910 7930
LEIPZIG BOOK FAIR	3/26- 3/29	Leipzig	01474 824091
BOLOGNA CHILDREN'S BOOK FAIR	4/ 2- 4/ 5	Bologna	00 39 51 282332
INTERNATIONAL BOOK FESTIVAL BUDAPEST	4/24- 4/26	Budapest	00 361 118 4581
WARSAW INTERNATIONAL BOOK FAIR	5/14- 5/18	Warsaw	02 617 8641
TURIN BOOK FAIR	5/未定-5/未定	Turin	0039 11433 1056
SEOUL BOOK FAIR	5/12- 5/17	Seoul	008227385414
BOOK EXPO AMERICA (ABA)	5/30- 6/ 1	Chicago	001 203 840 9614
SPECTAL LIBRAIES ASSOCIATION EXHIBIT	6/ 6- 6/11	Indianapolis	001 202 234 9317
AMERICAN LIBRARY ASSOCIATION ANNUAL CONFERENCE EXHIBIT	6/25- 7/ 2	Washington	001 312 944 8520
AUSTRALIAN BOOK FAIR	7/ 9- 7/12	Sydney	00 61 2 281 1073
IFLA	8/16- 8/21	Amsterdam	0031 7038 34827
INTERNATIONAL BOOK FAIR, BEIJING	9/ 2- 9/ 8	Beijing	0086 10 5063101
MOSCOW INTERNATIONAL BOOK FAIR	9/未- 9/未	Moscow	007 095 973 2132
LIBER/INTERNATIONAL BOOK FAIR	10/ 6- 10/10	Barcelona	00 341 3454351
FRANKFURT BOOK FAIR	10/ 7- 10/12	Frankfurt	0049 69 2102227
CIROBE '96 (Chicago Remainder Fair)	10/16- 10/18	Chicago	001 312 955 2967



Organizes your references and builds bibliographies in your PC

EndNote®

& EndLink

参考文献を保存・管理・編集し、リストを自動的に作成
EndLinkにより外部データの取込みも可能

EndNote (参考文献の保存・管理・編集ソフト)

- *個人の参考文献データベースを作成できます。雑誌・書籍等の16の文献タイプに合ったフォーマットで、著者・論題等の27のフィールド別に登録できます。
- *検索機能：検索フィールドを指定して、目的の文献が瞬時に見つけ出せます。
- *ソート機能：各フィールド（著者、主題、出版年）の昇降ソートが可能です。
- *主要な雑誌300誌の参考文献リストのスタイルが用意されています。

参考文献スタイル —18分野 (300誌) —

Agriculture (9誌) Anthropology (10誌) Biosciences (46誌) Chemistry (16誌)
Genetics (8誌) Gcsciences (57誌) Humanities (8誌) Immunology (19誌)
Medicine (46誌) Neural&Behavioral (13誌) Pharmacology&Pharmacy (9誌)
Physics (4誌) Psychology (10誌) Public Health (10誌) Science (6誌)
Sociology (11誌) Substance Abuse (9誌) Virology (9誌)

EndLink (外部データ取込み用モジュールソフトウェア)

- *データベース検索結果のダウンロードデータの取込みが簡単にできます。
- *既存の100種の取込み用フィルターが用意されています。
- *雑誌、書籍等の全ての文献タイプが取り込めます。
- *タグ方式のデータの取込みも可能です。

—お問い合わせは—

< 日本総代理店 >

ユサコ®株式会社

ユサコホームページ： <http://www.usaco.co.jp/>

〒105 東京都港区新橋1丁目13番12号 Tel:03-3502-6471(代) Fax:03-3502-6480

東京 Tel:03-3502-6472 Fax:0120-395-888 E-mail:tokyo-sales@usaco.co.jp

大阪 Tel:06-344-6624 Fax:06-341-5291 E-mail:osaka-sales@usaco.co.jp

名古屋 Tel:052-931-2601 Fax:052-931-9833 E-mail:nagoya-sales@usaco.co.jp

筑波 Tel:0298-23-1773 Fax:0298-24-7087 E-mail:tsukuba-sales@usaco.co.jp

1997年12月 通巻第367号 洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03)3271-6901 FAX:(03)3271-6920

印刷所=藤本総合印刷株式会社